発行／独立行政法人国立病院機構岡山医療センター　2008.11.　Vol.3 No.3

Information magazine

ザ・ジャーナル!!

“やさしさ便り～岡山医療センターの今”

Vol.3 No.3
秋号

URL http://www.hosp.go.jp/~okayama/　E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

CONTENTS

This is our hospital●病院フェスタ開催される ―― 2～3
●センターTOPICS ―― 4～5
ジャスト ナウ● 皮膚科、形成外科特集 ―― 6～7
シリーズ●岡山医療センター物語　第11話「がんを体験して」―― 8
●わたしの趣味 ―― 8
●病院の設備について ―― 9
●マダガスカル紀行 ―― 10～11
●病院活動案内 ―― 12

写真　病院フェスタ（2008.11.1）

地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院

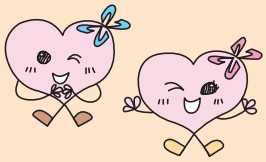
岡山医療センターの理念

―人にやさしい病院― をめざして
―Human Friendly Hospital―

1：患者さまにやさしい病院を目指します
2：病院で働く人にやさしい病院を目指します
3：地域の人にやさしい病院を目指します

センターTOPICS

病院フェスタが開催されました!!



平成20年11月1日（土）

院長体験

看護部長体験

各種屋台バザー

経営企画室長　今田　一馬

11月1日（土）、心配された天候も秋晴れとなり第2回目の「病院フェスタin岡山医療センター」が開催されました。昨年に引き続き今年も、地域の小中学生や高校生、一般の方々に病院を開放し、「病院を見てみよう」「病院で楽しもう」をスローガンに職員がアイデアを出し合い企画しました。

昨年大好評を得た外科体験、院内探検、救急蘇生、メタボチェック、調剤体験などに加え今年は、似顔絵セラピー、モザイク画を作ろう等の他、消防署の協力を得てはしご車、救助工作車、ポンプ車の展示もあり好評でした。

今年は3連休の初日ということもあり、何人の方が来場されるか心配しておりましたが昨年並みの約2,400名の来場者があり、安堵したところです。

来年も皆様の協力の下、更にパワーアップしようと思いますのでご期待下さい。

「救急蘇生を学ぼう」コーナー

麻酔科、集中治療科　鈴木　俊輔

「救急蘇生を学ぼう」では、蘇生用の人形を使って実際の心肺蘇生法とAEDの使い方について体験していただきました。小・中学生や専門学校の学生、また親子や夫婦で来られた方など、のべ70名の参加がありました。まず、病院スタッフのインストラクターによる「倒れた人を見かけた場合の対処の方法」についての説明がありましたが、皆さん大変熱心に耳を傾けられ、その後の人形を用いたAED使用の蘇生法体験には、額に汗しながら真剣な眼差しで取り組んでくださいました。「AEDは身近でも設置されるようになり、使い方を知っておきたいと思っていた。今回参加してよく分かった。」「実際に倒れた人を見かけたら何かできそう。また参加したい!」などのうれしい感想を多数お寄せいただきました。

AED

調剤体験

「メタボを学ぼう」コーナー

糖尿病、代謝内科　小倉 可奈子

代謝内科では「メタボを学ぼう!」と題して、利根医長を中心としてその名の通り体験すればメタボチェックが行える展示コーナーを行いました。検査項目は①血糖値②HbA1c③体脂肪④血管年齢(ABI)or脂肪肝チェック(エコー)⑤内臓脂肪(CT、希望者10名)で最後にメタボ判定を行い、メタボ弁当ももらえるというものです。幼稚園児～80歳代まで合計245名の方が参加して下さりとても賑わいました。驚いたのは全世代にわたる女性の「メタボ」への関心の高さと、最近テレビでよく話題になっている影響か「血管年齢」の人気の高さです。ドクターをはじめ職員も多数集まり盛り上がりました。私は初めて参加しましたがとてもいい経験になったと思います。

看護体験

「看護体験」コーナー
「アロマセラピー」コーナー

副看護部長　鈴木 美智子

今年で2回目の病院フェスタで「看護体験コーナー」を担当しました。今年も120人近いかわいい看護師やかっこいい医師の姿を撮影しました。なぜか白衣をまとうと、素敵に、りりしく変化していました。白衣の威力はすごい!今年は採血の体験もできるように準備し、とても好評でした。傷の消毒や包帯交換や血圧測定などスタッフからの説明を聞きながら一生懸命に取り組んでいる表情は真剣そのもの!また「アロマコーナー」では、アロマセラピストの有資格者の職員から事前に手ほどきを受けた看護師が一緒に、心地良い音楽とアロマの香りの中で、約200人の方のハンドマッサージを行い評判でした。

いずれのコーナーも、笑顔いっぱい!楽しさいっぱい!優しさいっぱい!にあふれていました。そして白衣姿でおもてなしをしていた私達も、あたたかい気持ち、やさしい気持ちを来場者の方々からたくさん頂き、多忙ではありましたが、達成感で終えることができたことに感謝しています。

「体験しました！病院フェスタ」

REPORT

外科体験では、本当に手術に使用している針や超音波で切除する器具などを使わせてもらいました。

特におもしろかったのは内視鏡のUFOキャチャーです。内視鏡の先は360度回転してビーズを移動させたり、ゴムを切ることも出来ますが、手の向きや加減で調節するのでとても難しく疲れました。お医者さんはこの様な作業を何時間も続けてするそうです。技術だけでなく体力も必要なんだな…と感じました。(小6・小松原　碧)

看護体験では白衣を着させてもらい、血圧・脈拍・体温をはかったりして…本当に看護師さんになった気分でうれしかったです。誰かがケガをしたら、消毒してガーゼをあてて包帯を巻いてあげようと思います。

めったに入れない手術室見学では、本物の器具をさわってドキドキしました。
(小4・小松原　唯)

センターTOPICS

マッチング人気ランキング全国17位に躍進!!

庶務班長　尾田　一郎

去る9月12日にあった平成20年度の医師臨床研修マッチングの中間発表のデータから、岡山医療センターが全国の臨床研修病院中17位となったことがわかりました。20年度のマッチングには、111の大学病院と980の臨床研修病院が参加しましたが、来年春に卒業する医学生のうち、研修先として当院を1位希望した方が29人（定員15人）あり、臨床研修病院の中では、当院が17位となったものです。

ちなみに、1位希望者が20人以上あった病院は、39病院ありました。また、トップ3は例年どおり、東京医療センター、聖路加病院、九州医療センターでした。なお、10月16日の結果発表でフルマッチしたことは言うまでもありません。

「マッチング」って何?!という方に･･･平成16年度から始まった新しい臨床研修医制度です。医学生が、自分の意思で自分の行きたい（研修したい）病院を選ぶ制度です。医学生の希望順位と病院の採用順位とで判断するのですがアルゴリズムという手法を用いるそうです。（アルゴリズムを詳しく知りたい方はインターネットでどうぞ）

院内コンサートが開催されました

管理課長　嘉数　和俊

10月10日（金）当院2階待合いロビーにて恒例の院内コンサートが開催されました。今回はオカリナコンサート「愛しい日本の曲」と題し、折井ユミコさん、原野　学さん、大山史子さんによる、オカリナ、琴、マリンバの共演で、「この道」「中国地方の子守歌」「待ちぼうけ」など10曲余りが演奏されました。

途中の語りでは、オカリナといっても何種類もあって、大きさや土質で音色が変わるということで、曲の雰囲気や周りの楽器によって使い分けて、私たちの耳に快い音色を響かせているようです。今回の、琴、マリンバという民族楽器とのハーモニーはとても優しい響きで入院中の患者さんは癒しのひとときになったと思います。

また、最後に「浜辺の歌」を全員で合唱し昔をしみじみと懐かしみながらコンサートを終了しました。

帰られる患者さんの顔が、皆さん朗らかになっていたことが印象的でした。

平成20年度中国四国ブロック管内小児救急研修会開催

5B病棟師長　間野　雅子

4回目の今回は、救急コースと成育コースに分けて10月23～25日の3日間に日程を増やし、県内外から医師、看護師、助産師、養護教諭、救急救命士の75名の研修生が講義･救命処置や病棟実習･テーマ別討論に参加し情報交換を行いました。筑波大学附属病院看護部臨床看護教育センター田村恵美小児看護専門看護師による「小児救急における倫理

的問題」では、救急現場にも子どもの権利が存在すること、危機的状況の子どもや家族への支援について、事例をもとに講義していただきました。私も看取りの時、子どものがんばり・家族が子どもを支えたことへのねぎらいを忘れず、家族が後悔しない関わりを大切にしたいと感じました。研修後「救急・成育共に興味があり、来年も参加したい」「友人に薦めたい」等の感想を多く頂戴したので、来年もよりよいプログラムをめざして一同がんばりたいと思います。

新任Drご紹介

本年4月以降新しく着任したDrの紹介です

呼吸器外科医師　重松　久之

平成6年に岡山大学を卒業し、腫瘍・胸部外科に入局しました。外科全般を研修の後、呼吸器外科専門医、がん治療認定医の資格を取得し、肺悪性腫瘍をはじめとするさまざまな胸部疾患の外科治療を担当しております。

整形外科医師　佐伯　光崇

平成14年　整形外科入局の佐伯光崇と申します。整形外科一般、主に外傷や関節を中心に診療に当たっております。このたびスタッフとして気持ちも新たに日々の診察、手術に取り組んでいく所存です。宜しくお願い致します。

小児外科医師　浅井　武

平成14年卒業。小児外科・小児泌尿器科全般を対象として診療させていただいております。患者様が元気に笑顔で退院でき、その後も後遺症無く過ごせるよう最善の治療ができるよう努力していきたいと思っております。

眼科医師　島村　智子

8月1日付けで着任しました。平成10年に自治医科大学を卒業後、平成15年に岡山大学眼科学教室に入局しました。今年7月まで岡山市内の川崎病院に勤めていました。当院は眼窩腫瘍が県内全域から集まってくる病院で、対象疾患がこれまでとまったく異なり、新鮮な気持ちで毎日診察を行っています。よろしくお願い致します。

腎臓内科医師　福岡　晃輔

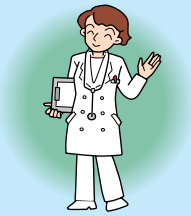
平成11年卒業で、平成20年1月から赴任しております。ネフローゼ、慢性腎臓病、腎不全、透析を中心に院内院外の患者さんに対応していきたいと思っております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

麻酔科、集中治療科医師　谷岡　野人

4月より麻酔科で勤務しております谷岡です。平成15年卒業で、麻酔科医として今年で4年目になります。安全な麻酔を目指し努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

脳神経外科医師　青井　瑞穂

平成4年卒業の日本脳神経外科学会専門医です。平成20年4月1日に着任致しました。地域の皆様、職員の皆様のお役に立てるような診療に努めたいと思います。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



産科・婦人科医師　中西　美恵

8ヶ月間の他県での勤務をはさんで、平成20年6月から再赴任しました。当院産婦人科は岡山県総合母子医療センターの指定を受けているため、正常妊娠はもちろんハイリスク妊娠・出産を手がける一方、主に手術療法の必要な婦人科疾患の診療に従事しています。

麻酔科、集中治療科医師　有森　豊

麻酔科の有森豊です。岩国医療センターから赴任してきました。宜しくお願いします。

わが病院の〝光るワザ〟

皮膚科・形成外科特集

ダーモスコピー検査
～皮膚科医は第三の眼をもっている～

皮膚科
山崎　修

ダーモスコピーは無侵襲で皮膚を観察する特殊な拡大鏡です。皮膚の観察において、臨床・病理に次いで第三の眼となります。通常の肉眼的な観察では光の乱反射を強く受けていますが、ダーモスコピーは皮疹表面にエコーゼリーを塗布して、プローブ先端のガラス平板で皮疹部を圧抵しながら観察するため、皮疹表面の凹凸が平坦化され、乱反射が軽減されます。このため肉眼的には認識できない皮膚の表面の所見がみられるのです。

ダーモスコピーが診断に有用な皮膚疾患は色素性母斑（ほくろ）、悪性黒色腫（メラノーマ）、脂漏性角化症（老人性いぼ）、基底細胞癌、ボーエン病、血管腫などの色素性病変です。特に手足のほくろの癌とほくろの鑑別に有用です。手足には指紋と呼ばれる凹凸がみられ、皮溝と皮丘に分かれます。皮丘の中央には白い点状に汗孔がみられます。ダーモスコピーではその色素斑が皮溝パターンか皮丘パターンかをみることができ、皮丘優位のパターンはメラノーマの可能性が高いのです。

加齢とともに以前からあるほくろが大きくなったり、しみやいぼや血管腫が増加することは多く、ほとんどのものは問題のない良性なのですが、気になるものは診察を受けてください。

最新レーザー治療

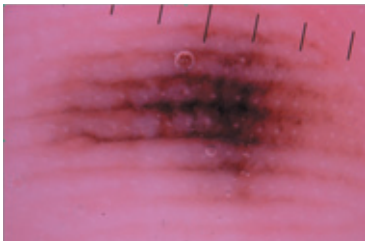
形成外科
末延　耕作

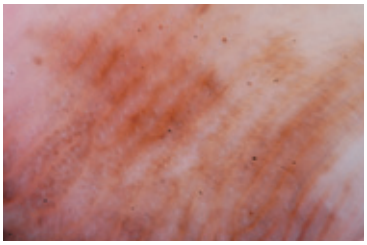
形成外科で取り扱う疾患は大きく分けて、新鮮熱傷、顔面外傷(軟部組織損傷、顔面骨骨折)、口唇裂口蓋裂、手足の先天異常および外傷（多指症、合指症、裂手症等）、その他の先天異常（小耳症を含む耳介変形、先天性耳瘻孔、頚耳、）母斑、血管腫、皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍手術およびその再建、肥厚性瘢痕、ケロイド、褥瘡、難治性潰瘍、美容外科（眼瞼下垂症）などが挙げられます。

年間手術件数は300件前後（レーザーは除く）であり1名の認定医と1名のシニアレジデントで診療を行っています。手術日は火曜日（全身麻酔）、木曜日（局所麻酔）、2日／週であり　水曜日、金曜日は主に他科合同手術を行っています。外来診療は月、水、木、金曜日の午前中です。当院の形成外科の特色は、小児先天異常疾患に対する手術の比率が多く、このため小児科、新生児科、小児外科に多大な協力を頂いて診療を行っております。必要に応じて小児外科、耳鼻科などと他科合同手術を行う事が可能です。小児全身麻酔下の手術は比較的早期に予定手術枠が埋まってしまうため、手術を希望する日の2ヶ月以前の受診をお勧めさせて頂いております。

平成19年度より、色素斑（異所性蒙古斑、外傷性刺青、扁平母斑、太田母斑は保険適応）

ダーモスコピー


色素性母斑（皮溝優位のパターン）


メラノーマ（皮丘優位のパターン）

NOW!

皮膚科・形成外科特集

私たちは進化しつづけます

に対する最新のQスイッチ付きルビーレーザー（照射速度が速く、苦痛が少ない）治療を開始しており。通院では治療が難しい、小児の全身麻酔下でのレーザー治療も行っております。さらに補助療法としてのスキャナー付き炭酸ガスレーザーも導入しております。特に小児の色素斑で悩んでいるお母さんは是非一度当科の外来受診をして頂き、充分な説明を受け、充分納得された上で最善の治療を選択すべきであると考えております。また充分な説明を行うため、時間に余裕がある水曜日、金曜日の昼前の受診をお勧めしております。この時間帯であれば即日レーザー治療を開始する事が可能です。

最後に小児疾患のみならず成人でも顔面などの傷跡が問題になる手術、顔面皮膚良性、悪性腫瘍の切除術、交通事故後の目立つ傷跡、傷跡の引きつり、顔面骨骨折、眼瞼下垂などに対する手術も行っております、ご相談のみでも積極的に対応させて頂きます。

● COLUMN

アレルギーの検査方法、特にアナフィラキシー＊の検査の手がかりについて

皮膚科医長　西原　修美

皮膚アレルギーの検査方法には、パッチテストが広く知られていますが、これは主として化粧品や毛染め、草花などによる接触皮膚炎を診断する検査法です。それに対して、アトピー性皮膚炎と食物アレルギーの関係や食物と蕁麻疹の関係を調べるのにプリックテスト（正式にはプリックープリック）[図1] という検査方法があります。これは、直接食べ物に検査専用の針（プリックランセンター）を刺し、その針を速やかに皮膚浅層に刺して、15分後に生じた膨疹の大きさで判定する検査法で、薬疹などの時にも応用されています。この検査方法ですと、アレルゲン（起因物質）がほんの微量しか皮膚に入りませんので（皮内反応よりも、もっと少ない）、アナフィラキシーを起こす危険性のあるアレルゲンでも比較的安心して検査を行えます。

図1

最近キュウイや桃、メロンなどの果物を食べると口腔粘膜や舌にしびれ感を覚える患者さんが、増えていますが、この病気はOAS（oral allergy syndrome 口腔アレルギー症候群）といって野菜や果物とラッテクス抗原や花粉抗原との交差反応やアトピー性皮膚炎が多様に絡んで発症すると考えられています。またパンやうどんなどの小麦や桃を食べた直後に運動をおこなうことによりアナフィラキシーを発症するFDEIA（food dependent exercise anaphylaxis 食物依存性運動誘発アナフィラキシー）も最近経験しますが、これらの疾患も、まず最初はこのプリックテストを行って疑わしい物質を見出します。

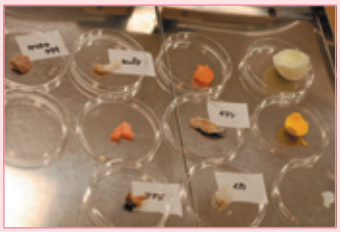


図2

最近学校給食の桃でアナフィラキシーを発症した患者さんを経験しましたが、お母さんに学校給食に出た食品全てを用意していただいて [図2]、それら全てのプリックテストを行い、その中から冷凍桃や缶詰の桃が原因であったことを突き止めることができました。

検査は抗ヒスタミン剤や消炎鎮痛剤の内服を検査の3日前から中止していただければ乳児から成人まで比較的容易にたくさんのアレルゲンを使用して検査を行うことができますのでぜひご相談ください。

＊ アナフィラキシー

特定の起因物質により生じた全身のアレルギー。重症になると血圧低下を伴うアナフィラキシーショックという危険な状態になり、死に至ることもあります。狭義には主にIgE抗体を介した即時型のアレルギー反応をいいます。

シリーズ　岡山医療センター物語　第11話

がんを体験して ［4回連載］_part3

6A病棟入院　松浦　洋子

　最近よくセカンドオピニオンという言葉を耳にします。私の場合は、全く悩むことなく必要性を感じませんでした。むしろ私が必要としていたのは、体験談の方でした。幸いなことに私は体験談を聞くことができました。しかも患部は違いましたが、進行度は似ていました。私より半年前に手術を受けられた知人女性です。美しく聡明な方です。こんな美人でもがんになるのだと妙に安心感を覚えてしまいました。体の不調はもちろんのこと、心の迷い、動きなどさりげない日常の会話の電話でのやり取りを通して何度も話を聞いてみました。今、自分の体調、心はあたりまえなのだ。「当然の状態である自分」　とても安心し勇気がわいてきました。体験談を聞けたことはとても良かったと思います。彼女のやさしさは、盲人マラソンの伴走者のような存在でした。私はとてもラッキーでした。

　抗がん剤投与中は、自己愛が強くなり考え方も狭くなってしまいました。わがままになっていたと思います。当然自分の持つ性格の中で嫌な部分とも当然向きあってしまうことにもなりました。前向きな考え方に体調も少なからず関与しているのではないかと思いました。

　人のやさしさ、言葉の持つ幅の大きさにも触れることができました。入院中、足繁く通ってくれて何度も何度も笑わせてくれた長年の親友たち、私の病気を知り自分のことのように泣いてくれた友人たち、毎日メールで日常を教えてくれる友人、絵てがみ、届けられた美しい花々、本当にはげまされました。新鮮なとれたての野菜、手作りの赤飯、お寿司、お菓子、どれもおいしく心をなごませてもらいました。また婦人病だったので冷やさないようにと筆で書いた写経つきの腹帯、やせた私の為にと届けてくれた洋服、帽子、みなさんに本当に感謝、感謝でした。中には元気づけようとペット連れの訪問までありました。

　自分を省りみて、私は人のことをここまで思ったことがあったのだろうかと考え直しました。また「心配しなくてもだいじょうぶ」「顔色よくなったね」「足元がしっかりしてきましたね」「私が信じている神様にいつも手をあわせて祈ってあげているからね」言葉の力のすごさも知りました。言葉が安心感を与えることと大きく背中を押してくれるということを。

（次号へ続きます）

私の趣味　「星と望遠鏡」

副院長　三河内　弘

ヘール・ボップ星雲

　満天の星空は綺麗である。望遠鏡で撮った天体写真の世界は肉眼では見えない別世界が見えてびっくりする。見えないものが写って見えてくることに新鮮な驚きを感じながらウン十年になる。といっても実際に望遠鏡を覗くのは数ヶ月に一度しかない。今は自作した直径25cmの反射望遠鏡を主に使っている。しかし私の家近くも満天の星空なんかどこにもなくなってしまった!　右にパチンコ、左にコンビニ…。ギラギラのネオンに石でも投げてやろうかな…。いやいやいけません。写真はバラ星雲と1997年にやってきた大彗星（ヘール・ボップ彗星）です。本当にバラのようで綺麗でしょう。どちらも自宅で撮ったものです。

バラ星雲

病院の設備について［電気の話］

企画課長　大西　寛征

2回目の主人公は「電気」です。皆さんご承知のとおり、病院においては、医療機器をはじめコンピューターや照明等、電気により稼働しているものが多くあり、電気がないと病院における診療等の活動が出来ないこととなります。そのために、電気については常時安定的な確保が必要となってきます。

では、当院において電気はどのような方法で確保しているかということになりますが、まず、電気は中国電力から購入して確保しています。その経路は、中国電力から66,000Vの特別高圧の供給を受け、変圧器で最初は6,600Vに変圧し、さらに400V、200V、100Vに変圧したうえで、病院内に配電しています。なお、400Vについてはエネルギーセンターの機器のみに使用しております。

病院内に配電する回路としては、「白コンセント」、「緑コンセント」、「赤コンセント」の3回路があり、通常は3回路とも中国電力から供給を受けた電気を配電しています。

電気の常時確保については中国電力からの供給が途切れないことが絶対要件ですが、落雷や送電系統における事故があった場合は、時間の長短はありますが停電となる場合があります。

病院としては、停電があった場合においても電気を確保する必要があることから、2つの方法により確保することとしています。

まず1つ目として、停電が瞬間であっても支障がある機器については、無停電電源装置（UPS）を設置して電気を供給するようにしています。この回路は「緑コンセント」として各職場に設置しています。

2つ目の方法としては、自家発電機により電気の供給を行うようにしています。この回路は「赤コンセント」として各職場に設置していますが、自家発電機の始動までに時間が約1分かかることから、その間は電気の供給が止まることとなります。

また、「赤コンセント」では、病院全ての電気を賄うことができないため、必要のある機器のみ接続できるようにしているところであります。

残る「白コンセント」については、中国電力からの供給のみとなっていることから停電時には電気が供給されませんので注意願います。

病院の進化に向けて看護師を大募集中！

花と笑顔と語らいの病院で
いっしょに働きませんか？

○院内に保育所を設置
（保育時間8～18時）
○宿舎5階建100室
（ワンルームタイプ、キッチン・バス・トイレ付）
※詳細はお問い合わせください

随時採用

応募についての詳細は当院
ホームページをご覧ください。
詳細は、☎086-294-9911 人事担当まで。

Republic of Madagascar

マダガスカル紀行

国際医療協力室　室長　臼井　由行

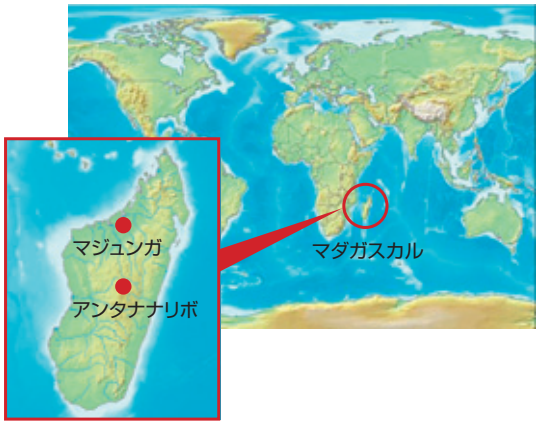
国際医療協力室の母子保健の研究として、マダガスカルに出張する機会を得ました。

東京の国際医療センター松井先生のマダガスカルでの海外援助のご活躍に影響を受け、情熱を傾けておられるマダガスカルの地への憧れが私をかき立てました。ヨーロッパへと赴く時とは勝手が違い、途上国マダガスカル訪問には、いつになく、緊張と不安と期待が入り交じった、何ともいえない複雑な心境のまま、関西国際空港に向かいました。マダガスカルの北部のマジュンガという町に、1週間ばかり滞在し、現地の病院、保健所、診療所などを巡りました。

■マダガスカルはどこにあるのか?

アフリカです。

関空からパリを経由して空路12+11+1=24時間。めざすマダガスカル・マジュンガは、日本を飛び立ってから丸2日半後にやっと到着できる地球の真裏でした。アフリカになりますが、大陸ではなく、アフリカの東、インド洋に浮かぶ島国です。日本より大きい島なんですよ。日本の国土の1.6倍あります。しかし人口は2000万人しか住んでいません。熱帯～亜熱帯に属します。



■アフリカのアジア、マダガスカル

マダガスカル人は今から1500年前に、インドネシアの辺りから船で移住してきたそうです。もちろんアフリカ大陸から移って来た人もいたそうですが。だから、アフリカのアジアと呼ばれているそうです。お米を主食として、田んぼもあります。棚田もあります。そこにはアジアをほうふつとさせる風景が広がっていました。食事は日本のお粥のようなものがあり、旅に疲れた私を癒してくれました。また、マダガスカル語は東南アジアの言語に似ているそうです。

今から200年くらい前には、統一王朝ができました。しかし、ヨーロッパ人が来て、フランスの植民地になり、1960年にやっと独立しました。それから、自分たちの力で、いろいろと国を整備していましたが、1990年頃から内戦があり、国内の状況は逆戻りしてしまいました。道路が内戦のすさんだ時代を静かに物語っていました。舗装されていた道路はいたるところで大きな穴があり、路肩は大きくえぐられ、でこぼこ道どころの騒ぎではありません。そして2000年頃から、内政が安定してくると、日本をはじめ、各国の援助が再び入るようになりました。

■母子保健の統計

乳幼児死亡率が1000人あたり年間50人（日本は5人以下）、妊婦死亡率10万人のお産あたり500人ぐらい（日本は6人ぐらい）です。平均寿命が約50歳だそうです。

かかりやすい病気には、蚊により伝染される、マラリア、デング熱、チクングンヤ熱などの他、感染性胃腸炎、寄生虫の嚢虫症などがあります。私が毎日、緊張し、最新の注意を払ったのは、蚊。防虫スプレーを連日ボディクリームのように身にまとい、蚊取り線香は農作業よろしく必携でした。

そのようなわけで、日本がマジュンガに母子保健サービス改善プロジェクトを、これまで行ってきたわけです。

■マダガスカル・マジュンガ最高レベル、CHU大学病院

私は、CHU（セー・アッシュ・ウー）と呼ばれる大学病院をまず訪れました。そこには、2年前に岡山医療センターに研修に来られた、アリステッド先生がいらっしゃいます。

ドクターには珍しく、日本ではシャイな印象を受けましたが、現地では産婦人科のトップとして、さすが、堂々としておられました。マダガスカル人の恥ずかしがり屋な国民性に初めて気づいたのでした。

CHU大学病院は、その地域の最高の病院であるはずですが、建物は多くが古く、地面が見える舗装されていない広い敷地に、低層階の建物が散在していました。外科棟では、水漏れがあり、手術室のペ

ンキが剥がれかかっており、産科棟（日本が最近建てて、病院中最もすばらしい）の手術室を使っている有様でした。また、多くの機械は、故障しても、地方では直せないようでした。

■日本が建てた産科棟

日本政府の援助で建てられた産科病棟は3階建てで、1年前に完成したばかりでした。すばらしい設備で、それらは十分に使いこなされているようでした。しかし驚いたことに、レントゲンを撮るには、いったん外へ出て、別の棟に行かなければなりません。まるで、戦前の岡山大学病院（著者は生まれていません）を思い出すようでした。とはいっても、そこは最終的な分娩施設で、難しいお産がマジュンガ各地から紹介されてくるシステムになっていました。

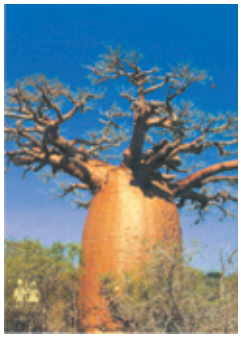
■周辺の医療事情

まだ整っているとは言えず、多くの診療所では一人の医師が内科、産科、小児科などなんでもこなす家庭医でなくてはならないという状況でした。しかも驚くなかれ、医師のいない保健婦だけの診療所もありました。マダガスカルでは一人の婦人が出産する子どもの数が多く（平均5人くらい）、どこに行っても子どもがいました。陽気な子どもたちの声が響く広場や路地はとてもにぎやかで、元気な国の印象です。

普通のお産は地域の診療所か家庭でおこなわれているようでした。診療所では、分娩台などなく、木の固い粗末なベッドがあるだけでした。ドップラーなどもなく、聴診器だけでした。しかし、出産したばかりの婦人とその家族の幸せそうな顔は万国共通で、忘れることができません。

■フルーツと緑の国、マダガスカル

マダガスカルは、もともと一つであった大陸から分かれてできた島国ですが、早くから分離したために、独特の生態系を持っています。珍しい動植物がいます。横歩きしながら飛ぶように進むキツネザル、カメレオン、カメなど。『星の王子様』で有名なバオバブの木は初めて見ましたが、空に向かって根っこが伸びているようで、奇妙でした。特にマジュンガに



生育するバオバブは幹が太く、どっしりとしています。その他、バナナ、マンゴ、ココナツなどの木も多く、たわわに実をつけている樹木をよく目にしました。亜熱帯気候のため、年中実がなり、食べるのには困らないようでした。いたるところで、10mくらいのマンゴの巨木に、まぶしいくらいの緑色の大きな実が鈴なりになっていたのは驚きでした。10月頃が食べごろだそうです。（私が訪れたのは、残念ながら9月でした。）

■満天の星空を眺めて想うこと

アフリカ・マダガスカルに来て、自然に近いお産を見ました。日が沈むとあたりは真っ暗です。一人、夜空の満天の星、天の川、南十字星を眺めました。熱帯のスコールの凄さに夜、目が覚めました。マダガスカルに来て想う、「リフレッシュ」というカタカナ言葉の響きとまた違う、胸の奥で高鳴るこの気持ちは何なのだろう、と思いました。ネイチャー（自然）、そしてわが祖国日本への想いです。

地球に住んでいる先進国とよばれる人々はわずか10数%しかいないことを実感しました。地球上の80数%はこのような途上国なのです。マダガスカルの人々は、内戦が終わって、国の発展というビジョンをめざして、皆が一体感を持ち、力を合わせて良い方向に向かっているのを肌で感じました。

同時に日本という国が、自然、地域的にいかに恵まれているかを感じました。日本人の祖先が、温帯にある最大の島に定住し、現在の私たちが在るわけです。水が豊富で、肥沃な土地、美しい自然、日本。素朴に素直に思います。いつまでも大事にしたい気持ちです。

感謝と尊厳の気持ちをあらためて心に刻みました。

[病院活動案内]

地域医療研修室　セミナー・講演会（12月～1月）

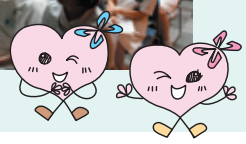
会場/当院4階大研修室　時間/19:30～20:30

日　程	種　別		演　者
12月16日（火）	第85回 初期治療セミナー	当院のリハビリ （循環器・呼吸器リハを中心として）	当院リハビリ科スタッフ
1月15日（木） （18:00～19:00）	院内研修会 （院外からの聴講可能）	「私らしく生きる・医療人として輝く！ －女性医療人支援：岡山大学病院の取組」	岡山大学卒後臨床研修センター 講師 岡山大学病院キャリアセンター 片岡　仁美
1月20日（火）	第86回 初期治療セミナー	小児の血液疾患 ‥ここ10年間の症例から	当院小児科医師 古山　輝久

●熱演！医療事故初期対応シミュレーション●

医療安全管理係長　佳川　浩子

10月17日、第1回医療事故初期対応シミュレーションを行いました。想定場面は救急搬送された二人の患者を取り違えて手術を開始してしまう場面です。名前を呼ばれた患者は、条件反射のように返事をし、看護師はネームバンドを取付けます。目の前で繰り広げられるシーンの状況に、「自分も起こしかねない」との感想が多く聞かれました。誤認手術がわかった後の応援依頼や報告シーンと共に、副院長の「現場の保全をお願いします」のセリフにも、今回伝えたい重要な要素が含まれています。「緊急事故検討会」や「家族への説明」の場面など、院長・副院長とも自分の役で出演し、豪華キャストによる熱演が繰り広げられました。組織の対応を知り、事故を自分の身に置き換えて考える貴重な研修となりました。



編集者から●あとがき

米国から始まった世界的金融恐慌、また、我が国においては、政治の空白、年金問題、医療崩壊などなんとも暗い年の瀬です。

当病院では、現医療システムのなかで、病院スタッフの団結のもと、何とかより良い医療を目指して日夜がんばっているところです。

11月には、第2回の病院フェスタを開催しました。病院を一般に公開し、約2400人の市民が訪れました。

来年はどうなるのでしょうか？医療の安定は政治・経済の安定によって支えられていることを忘れてはならないのです。

（臼井　記）

ザ・ジャーナル!!
第3巻　第3号
平成20年11月30日発行（年4回発行）
編集責任者　大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701－1192　岡山市田益1711－1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255
印刷：山陽印刷㈱